

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870801236		
法人名	社会福祉法人明進會		
事業所名	たるみグループホーム		
所在地	神戸市垂水区平磯4丁目5-13		
自己評価作成日	令和3年9月22日	評価結果市町村受理日	令和3年11月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 ライフ・デザイン研究所
所在地	兵庫県神戸市長田区萩乃町2-2-14
訪問調査日	令和3年10月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

健康と笑顔、そして「感謝と相手を思いやる気持ちを忘れず」をモットーとし、その人らしく在宅生活と変わらない普通の生活を目指しています。又残存機能を維持しつつ、病状の悪化防止に力を入れ、ご家族とのコミュニケーションも大切にしています。現在は新型コロナウイルス予防の為にご家族とのコミュニケーション、近況報告、情報の共有はお電話でお伝えしています。又 近隣の方々やボランティアの受入、等他との交流も控えさせていただいています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①地域の中での望む暮らしの実現・・・事業所テーマ「地域で、それぞれの想いに添ったケア(寄り添い、その人らしい人生が送れるケア)を目指す」実現のため、家族・地域の方々と共に助け合いながら、全職員でその実現に取り組んでいる。②閉塞感なき日常への工夫・・・コロナ禍のため、ユニットに閉じこもりがちな環境ゆえ、入居者の日々が明るくなるよう、様々な工夫が設計されている。⇒イ)屋上庭園:季節の草花への水遣り、野菜の収穫、ティータイム、日光浴 ロ)車窓からの花見ドライブ ハ)ユニットで行う種々の行事:夏祭り、敬老会、クリスマス会、球技大会、新年会、調理レク等③家族との連携・・・コロナ禍のため、ご家族の事業所への訪問頻度は減っているが、家族にアンケートを実施したり、面会方法も工夫しながら、ご家族の力を事業所運営に活かしている。④風通しの良い職場環境・・・職員の育成環境(キャリアアップ制度導入)、福利厚生面の充実、情報が全職員で共有されている等、働きやすい環境が整備されている。⑤地域と共に・・・コロナ禍ではあるが、感染予防に努めながら知識還元として、専門学校生の実習は受入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、介護士室、エレベーター前、リビング等に「感謝と思いやる心」の理念を掲げ、常に職員皆が業務の中で意識付けが出来るようにしている。又理念に添った介護計画を立てサービスにつなげている。	「相手のことを思いやり感謝の気持ちを忘れずに」(運営理念キーワード)を基軸に、「入居者が地域に根差しそれぞれの想いに添った日常生活が体現できるケア」を目指し、全職員でその実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ感染防止の為に交流は中止としているので、外出の交流はないが、近隣の飲食店から出前やお弁当を配達してもらって交流を続けている。	コロナ禍のため、従前のような買い物(商店街の活用)等は自粛しているが、感染予防に努めながら、日々の散歩や社会資源(近隣公園等)へのドライブや車窓からの花見等は実施し、季節の移ろいを体感できるように取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナ感染防止の為に今までの行事、研修等、又入居者様が参加、実施されていたこと全てを中止している。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ感染防止の為に外部の参加での開催は中止しているが、施設職員で運営推進会議を開催し、近況報告や、運営に関する会議の議事録等をご家族に郵送で報告を行っている。	コロナ禍のため、リアルな開催は自粛し書面会議を継続的に実施した。ホームからの情報発信を行い、意見等を聴き取り、運営に活かす方式で取組んだ。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターのケア会議は開催されていない。今年度は垂水区グループホーム連絡会の幹事となっており、FAXでの情報交換(アンケート式)と希望施設でのオンラインで意見交換を実施した。	区のGH連絡会、地域ケア会議等にはFAX・オンラインで参加し情報の共有・交換、課題の検討等を行い運営に活かしている。地域包括支援センター、地域の消防団とも連携は従前通り継続ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間研修計画には「身体拘束」の研修があるが、コロナ禍の為に研修は、自身が疑問に思うことについて意見を出し、フロアごとで話し合う研修を実施し身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。身体拘束に該当するの？しないの？疑問があれば行政に現状を説明し、適切な取り組みに努めている。	研修及び月例での事例検討(委員会主導)を通じて「身体的拘束等の弊害」については十分理解しており、また、認知症者の視え方(VR体験)を通じ、入居者へ寄り添うことの必要性をより強く実感し支援に活かしている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修計画には「身体拘束」の研修があるが、コロナ禍の為に研修は、自身が疑問に思うことや実際これは虐待？について意見を出し、フロアごとで話し合う研修を実施、自分達のケアを見直したり、今後に役立てた。又スタッフ間のコミュニケーションが良好になるように努めた。	研修・勉強会、日々のケアの振り返りを通じ「不適切なケア」の発生要因を理解し、その払拭に取り組んでいる。職員のメンタルヘルスにも留意し、職員間のコミュニケーションは良好である。また、福利厚生面も充実している(長期休暇制度等)。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に「成年後見制度」の研修を行ったことがある。現在、数名の方が利用されている。	現在、権利擁護に関する制度を2名の方が活用しておられる。職員は、制度活用が認知症高齢者への支援の方策として有用であることを理解しており、入居者の状況に応じ家族等へも情報を提供している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に諸契約書類に前以って目を通していただき、契約時には、疑問・質問等にも説明を行っている。「たるみグループホーム版 よくあるQ&A」の冊子を作成しており契約前に渡している。又いつでも見れるように玄関受付にも備え付けている。入居前にはご家族からの質問には分かりやすく説明をしている。	ホームでの暮らしに不具合が生じないよう、事業所見学、アセスメント、「Q&A」の配付、質疑応答等により不安感・疑問点が無い状態にして契約を締結している。契約時には関連書類を丁寧に説明し理解いただいている(重度化・終末期への対応方針も)。	契約書関係書類等の説明に加え、介護保険上の当該サービスの趣旨・事業所のケア方針もご家族に伝え、本人本位の生活の達成のため、「チームで支援する介護」にご協力をいただけるよう期待をします。
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナ感染防止の為に全ての交流は中止としている為、直接的にはないが、ケアプラン説明時(電話等)や緊急の受診等で話が出来ることがある。現状ではコロナ感染防止策などの話し合いが多い。	運営推進会議、家族会(アンケート実施)、来訪時(頻度は高い)、電話・メール、意見箱等、様々な機会を設けて意見・要望を聴き取っている。いただいた意見等は直ちに共有・検討し、フィードバックするとともに運営に活かしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回フロア会議を実施して出た意見、提案をリーダー会議で話し合い、理事長、施設長、事務長、保育園と、全部署参加の職員会議で報告、検討している。	月例会議(職員会議・フロア会議)において様々な意見・提案が具申され、素早くトップに伝わり全職員共有しての検討がなされ、事業所運営が活性化されている。個別面談(年2回)も実施し、職員の意見・提案を聴き取っている。	タイムリーに業務(ケア)の質を検証し、その質を向上させていく取組を、今後も継続して頂きたいです。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、普段から話しやすい関係作りを心がけ、いつでも話を聴ける状況を作り、現状の把握に努めると共に、人事考課制度の導入と個別面談を実施し、各自がやりがいをもてるような働きやすい職場、環境づくりに力を入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアアップのため施設外研修を受講しやすいようにシフトの調整や研修費の補助を行えるようにしていたが、コロナ禍の為に外部での研修受講はなかった。最近ではオンラインでの研修を推進している(認知症の研修を受講した)。施設内での研修は実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	垂水区グループホーム連絡会ではFAXでの情報、意見交換を行った。又オンラインでの情報交換も実施し、運営やサービス向上に努めた。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接時にはご本人の様子や、ご家族からは困っていること、要望等を伺い、担当ケアマネからも情報提供して頂きながら初期の段階から信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接時にはご家族の不安ごとや要望を伺っているが、コロナ禍の為、短時間で行っている。入所直後にはお電話でのやりとりを何度も行いご家族の心に寄り添えるような関係作りが出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に生活歴、病歴等を情報収集しアセスメントを行い、どのような支援が必要なのか検討し提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	泣き笑いを共にし、家族同様の立場で感情を表現している。ひとつの家族が普通の暮らしが出来ることと同じように、相手を思いやる気持ちを持って関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	認知症ケアには、家族の協力が必要不可欠と考え、今までは、来訪、受診、外出、外食等、ご家族に協力をお願いしているが、コロナ感染防止の為にZOOMやお電話、お手紙などで協力をお願いし(精神面のケア)、ご家族との絆が耐えないように努めている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までは、入所前の知人や親戚の方の来訪、電話等を快く受け入れていたが、コロナ禍のために馴染みの場所等へ行くことを控えている。又 知人との会話も電話でお願いをしている。	コロナ感染予防を図りながら、家族による通院同行や面会(オンライン・対面)、電話での会話(親族、知人)等、実施可能なサポートを実践し、今迄の生活感ができる限り長く継続するよう支援している。	コロナ禍の中、制限も多くありながらですが、ご家族の理解・協力をいただきながら工夫を継続され、今後も入居者個々人のご家族等との大切な時間の確保の継続支援を願います。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの個性を把握し、孤立しないよう又、入居者同士でトラブルにならないように食席は常に考え、状況を見ながら何時でも職員が中に入れるように入居者同士の関係づくりに気を配っている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新型コロナ感染防止の為、どこの施設に転居されても訪問することが制限されているので、ご家族や関係のある方に近況を伺う事はある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの関わりの時間を多くとり、その関わりの中から(会話 言動 表情 仕草等)ご本人の思いや意向を汲み取り、把握に努めている。その思いや意向は介護計画に反映させている。内容等は月1回のモニタリング会議で共有している。	入居者お一人おひとりの係わり(会話、言動把握、表情・仕草等)の中から、ご本人が望む暮らしとなるよう、その思い・意向を汲み取っている。キャッチした情報は申送り・連絡ノート、ミーティング等で共有している。	入手した情報は、「本人の生活意向(ニーズ)」として介護計画に反映できるように、努めていただけることに期待をします。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、ケアマネからの情報収集や入所後のご本人との関わりの中から今までの生活歴、暮らし方を聞き取ったり、行動、行為から今までの様子を読み取っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で心身状態を把握し、感情の状態については独自の記録(記号)で記入して月1回のモニタリング会議でフロア職員全員が状況把握に努め、その人に合った過ごし方などの話し合いをしている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回フロアごとに全職員でモニタリングを行い、ケアのあり方について検討をしている。必要時には、ご家族とのカンファレンスを行い現状に即した介護計画を作成している。状態に変化があり、ご家族とのカンファレンスが必要な時にはコロナ感染防止に注意し行っている。	入居者の思い・意向、家族の要望(話し合う機会は多い)、職員等の意見を踏まえ、ご本人の「今」に適合した有用性の高い介護計画を作成している。頻度高いケアカンファレンス・モニタリング(記録された事実に基づく)をプランの見直し・更新へ取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の様子や会話の内容を細かくケース記録に記入し、毎日業務に入る前には目を通し情報を共有している。月1回のモニタリングではケース記録を基に見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新型コロナ感染防止の為、併設施設の保育園児との直接交流は中止しているが、お誕生日月には園児の手作りのメダルを頂いたり、日々園庭にいる園児の声は聞こえている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ感染防止の為に外出は行っていない。数ヶ月に一回、緊急事態宣言が解除された時には理髪店に行き整髪している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族希望の病院(主治医)を受診していただいている。ご家族の協力を得て入居前からの病院(主治医)を通院されている方もあり適切な治療を受け、定期的に血液検査も受けて頂いている。コロナ禍の為にご家族との通院も制限している。	ご本人の主治医に定期受診(外来)をして健康管理(検査等含む)をお願いしており、通院同行は家族と協同している(眼科・皮膚科・整形外科も)。また、口腔ケア研修を実施し、予防歯科にも努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制は取っていないが、看護師職員も居りご入居者の健康管理のためのアドバイスを受け早期発見・早期受診している。薬局と薬に関する相談もしている。又、月1回施設内にて医療に関する講義もあり知識を深めている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は病院ソーシャルワーカーに日常生活状況等、情報提供をし、安心して治療ができるように連携を密にしている。現在はコロナ感染防止の為に入院中に伺う事は出来ない。	入院中は、MSWIに連絡を取り、入居者の現況を把握し家族とも情報を共有している。病院とは早期退院を目標に連携し、退院時には、ホームでの暮らしに不具合が生じないよう詳細な情報を入手し支援に活かしている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時や運営推進会議、家族会、カンファレンス時において施設でできる事、できない事(方針)を十分に説明している(現在はコロナの為に中止)。状態が悪化した場合はケアプランの変更と共に再度説明をして理解を得ている。	重度化・終末期への支援については、「できること」「難しいこと」を明確にし、その状況になった場合には、ご本人にとって望ましい支援となるよう関係者(本人・家族、医療従事者、事業所等)で相談・検討し取り組んでいる。この一年で1名の方を看取らせていただいた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを策定し備えている。又、AEDの取扱いの研修や緊急時の対応については定期的にフロア会議等の時に確認をして急変時の対応に備えている。施設内外研修で学ぶ機会もあり、月1回看護師による医療に関する講義も実施している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ご入居者、ご家族、近隣の方に参加して頂き、火災避難訓練、地震津波の避難訓練を併設保育園と合同で実施していたが、コロナ感染防止の為に、蜜を避け避難経路を分けて保育園と合同避難訓練を行っている。フロア会議の場でマニュアルの読み合わせや避難経路の確認、シェイクアウト訓練をフロアごとで実施している。	定期(年2回)の通報・消防・避難訓練(地震・津波含む)を実施(日中帯・夜間帯想定)している(家族・近隣の方・消防団も参加)。また、非常食・水等も備蓄(7日分)している。地震・津波時の避難場所となっていることを近隣の方にも発信している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者の現況を把握し、自尊・羞恥心に充分配慮しながらTPO(時、場所、場合)に応じた柔軟な声掛けを心がけている。	入居者個々人の現況及び自尊心・羞恥心に充分配慮しながら、今まで培ってこられた事柄(技能・趣味・習慣等)のうち、日々の暮らしの中でできる部分をご本人のタイミングで体現ができるよう支援している(園芸・調理・家事手伝い等)。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人、ご家族から嗜好を聞かせていただいたり日常の関わりの中から好みを把握し、お誕生日月にはお好きな物を伺い皆さんと一緒に食べていただいている。フリーメニューの日にも食べたいものを伺って調理をしたり、出前をとる事もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人、ご家族の意向を取り入れた介護計画を基に日々の生活の支援させていただいているが、その時々々の気分や体調に合わせて柔軟なサービス提供に気を付けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ感染防止の為に、外出は出来ていないが、フロアでの行事の時には着替えたり、お化粧をすることがある。又近隣の理髪店に密を避けて散髪に行き少しのおしゃれを楽しんでもらっている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前の嚥下体操や盛り付けの工夫、配膳を一緒に行うことで食べる意欲を引き出し、食後の片づけにも参加していただいている。フリーメニューの日には、希望を伺い出前をとったり、好みのお弁当を買ったり、調理を一緒にして食事を楽しんでいただいている。又フロアごとでおやつ作りも一緒にしており、コロナ禍で外食が出来ないので、フロアで楽しんで頂けるように支援している。	献立の希望も取り入れながら(木・日フリーメニューの日)、職員と一緒に楽しみながら調理、盛り付け、後片付け等、「できてやりたい部分」を一緒に行っている。また、コロナ禍のため、外食には出向けないため、代替えとして出前やテイクアウト等を楽しんでいただいた。ティータイムや手作りおやつも楽しみ事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分量を記録し摂取困難な方には水分をゼリー状にしたり経口補水液の摂取で対応している。食事はバランスに気を配った高齢者メニューを取り入れ、食欲低下の方には、食器の工夫(目先を変える)や品を変えたり、主治医と相談し栄養補助食品の処方を受け栄養管理も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、就寝前には義歯を洗浄液に浸して清潔保持に努めている。口腔内に異変があればご家族に連絡し歯科受診をしている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄が出来るようこまめな声掛けにより排泄の失敗を減らせるよう努めている。ご本人のしぐさ、サインを見逃さずトイレ誘導をしている。夜間も睡眠を妨げないように個々の状況に合わせた声かけをトイレでの排泄を促している。	入居者ご本人の現況及び排泄パターンとそのサインを把握し、ご本人にあった方法でトイレでの排泄が行えるよう支援している(見守り中心)。夜間帯もトイレでの排泄を基本に支援している(状況によりパッド交換の方もおられる)。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜たっぷりのメニューやバランスを考えた献立とキヌアや寒天、ヨーグルトなどを摂り入れ、こまめな水分摂取で便秘予防に努めている。又主治医と相談しながら便秘解消に努めている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を基本としているが、ご本人の気分、体調に合わせて時間を調整している。又拒否の強い方には無理強いせず関わり方の工夫で入浴を楽しんでいただいている。希望があれば好みの洗顔、石鹸、シャンプーを使用している。入浴剤を使つての入浴も楽しんで頂き最近ではCDで音楽を聴きながらの入浴を個別対応で楽しんで頂いている。	週3回の入浴を基本に、ゆったりゆっくりとした入浴時間となるよう支援している(好みの洗髪剤、石鹸の使用、職員との楽しい会話、2人介助・同性介助等)。また、季節湯(柚子湯等)・入浴剤も喜ばれている。職員は入浴支援の目的を理解して重要なことは記録に残すようにして支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後には居室でゆっくりテレビを観たり、リビングのソファでご入居者同士や職員とお茶を飲みながら雑談したり、穏やかな時間を過ごして眠りやすい状況を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時に主治医には薬の相談を行っている。飲み込むまでの確認や症状に変化があれば随時主治医に相談し、薬局(薬剤師)とも密に相談しながら間違いない服薬に努めている。又服薬に関するマニュアルを策定しマニュアルに添った服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活習慣を把握し居室の掃除、食事の準備、花の水やり、洗濯物干し、洗濯物たみ等それぞれの方が出来る事をしていただき自宅と同じように生活していただけるよう努めている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ感染防止の為に外出は出来ない。又ご家族との外出もしていない。気候の良い日には屋上を活用して外気浴・お弁当やおやつを食べたり、気分転換をしていただいている。	日々の散歩や屋上庭園での草花・野菜への水遣り・収穫(芋ほり等)、日光浴等、日頃より外気に触れる機会が多い。車窓からの花見ドライブやコロナ禍の状況を踏まえての外出支援を実施し、適度な刺激となる非日常も演出している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金は事務所金庫で預かっている。入居当初から本人希望でお財布を持っている方もおられるが(ご家族了解済み)、外出や買い物の機会が無いので財布から支払うことはない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居当初携帯電話を持参されご家族や知人に連絡できるようにしていたが、昼夜時間に関係なく長時間お話をされることでご家族が解約をされた。手紙は書いて頂きスタッフがポストに入れている。コロナ禍で面会が出来ず、ZOOMやアレクサで会話を楽しんで頂いている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁にはご入居者合作の季節感ある貼り絵や飾り付けと、行事等の思い出の写真を貼付し何時でも見られるようにしている。又危険でないよう整理整頓を心がけ居心地良く過ごせるように工夫をしている。	四季の移ろいを感じられるフロア入口、適度な採光の入る穏やかな雰囲気のリビングフロア、入居者制作の季節飾りや行事写真が貼付された壁面、外気浴・眺望が楽しめる屋上庭園等、思い思いの暮らしの実現できる共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居者同士の関係性も考慮した食席をその時々々の精神状態で常に席替えをしており、お隣通して気持ち良く過ごしていただけるようにしている。又1人で落ち着ける場所があれば提供している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の使い慣れた家具やテレビ、家族の写真等を飾り、家具等の配置はご家族が行っている。状態に変化があればご家族と相談の上、危険のない様にレイアウトしている。	使い慣れた馴染みの大切なもの(家具、家族写真、仏壇等)を持ち込み、ご本人が居心地の良い居室となるよう支援している。ADLの変化への対応も家族と相談しながら取組んでいる(センサーの活用等)。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の身体機能を考慮し、危険と思われるものはご家族と相談して排除したり、身体状況を見ながら自立した生活が無理なく出来るように工夫している。		